Ｔたのしく　Ａあかるく　Ｏおもしろく　∽　Ｔたるをしる　Ａありがとう　Ｏおかげさま

ＴＡＯ通信　2005年　新春号

編集・発行　波多野毅　2005年1月1日発行　　通刊　第30号

TEL&FAX 0967(46)3913　IP電話⇒050(3326)9695　ｽｶｲﾌﾟｱｶｳﾝﾄ taotakeshi

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　塾⇒http://www.weavetango.ne.jp/~tao　　ネットショップ⇒http://www.earth-design.jp/~taocomm/

E-mail wildoats@bronze.ocn.ne.jp　携帯 wildoats@ezweb.ne.jp　〒869-2501 熊本県阿蘇郡小国町宮原 908-4

この紙は国内回収新聞古紙100%のリサイクルペーパーです。

Towards	1　独立自由人	Be independent and free.
enjoying	2　知的野生人	Be intellectual yet down-to-earth.
21st century	3　草根世界人	Be international yet act locally.

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。

年末に企画した第 75 回ＴＡＯ塾社会人講座は、講師に元国連職員の北谷勝秀氏を招き、30 年以上に渡り世界の貧困、女性、人口、環境問題に取り組んできた歩みについて話しを聞きました。塾生ばかりでなく、遠くは北九州からの人も含めて一般の人も多数参加してくれました。北谷さんの話の前に、3 年前やはりＴＡＯ塾で北谷さんの講座を聞いた卒業生の松岡実菜子さんにショートスピーチをしてもらいました。

彼女は北谷さんの講演がきっかけで自分も将来国際的な舞台で、世の為、人の為に役立つような人になりたいという志を立て、猛勉強を始めました。まずは中学校で英語が一番になり、最終的には学年トップの成績になりました。その後、熊本市内の高校に進み、今回晴れて立命館大学国際関係学部アメリカン大学プログラムという二年間は米国の大学に留学する狭き門を突破したのです。彼女は、単にいい成績やいい学校に入ることだけを目的にガリ勉に励んだ優等生ではありません。己自身に芽生えた「志」のために自分を磨くことを志願し、塾にも自主的にほぼ毎日通ってきました。

自分の人生を切り拓く本当の学びは強制では育ちません。競争心を煽ることで、短期的に結果を出すことはできても、長い人生を突き動かす大きなエネルギーにはなりえません。時代の変革期の今、「志」を育む土壌作りの意義をあらためて実感しました。

◎お正月に会いましょう！1月2日朝11時～昼3時　小国産交バス1F　ＴＡＯ

今年は、特にプログラムもなくゆったり、まったりと過ごしたいと思います。甘酒飲んだり、餅を食べたりしながらおしゃべりを楽しみましょう。色々面白い人達が出入りします。気軽に遊びに来てください。

◎1月5日（水）～1月10日（月）　ＴＡＯ塾冬期講座（この冬さらなる飛躍を！）

2005年度塾生随時募集中です！（小～高）

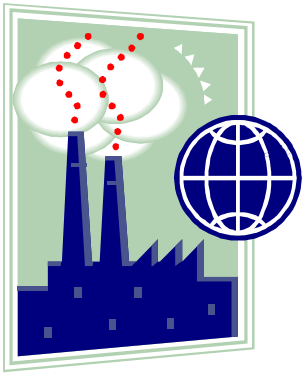
ＴＡＯ塾生：　西南学院・ＩＣＵ・久留米大学附設・弘学館・済々黌・熊本第一

合格実績：　真和・マリスト学園・熊本電波高専・八代高専・東陵・熊本北 etc

●1対1コース　●クラス授業　●国・理・社特訓コース　●不登校個人指導

◎ 松岡実菜子さん（⇒立命館大学国際関係学部アメリカン大学プログラム）

私は、将来、国際公務員になって、地球環境問題解決に貢献したいと考えている。公務員として建設環境課で働く父の影響で小学校の頃から環境問題に関心を持ち始めた。具体的に志望を決めたのは、中学時代に国連人口基金事務局次長などを歴任された北谷勝秀氏の講演を塾の講座で拝聴したのがきっかけだ。それまで塾の先生から世界の貧困、紛争、環境問題などの現状を色々教えてもらっていたが、北谷氏の講演を聞いてグローバルな視点で物事をとらえることの重要さをあらためて痛感した。



高校３年間、学業はもちろんのこと、様々な課外活動にも全力で取り組んできた。高校１年の冬「国際環境都市会議くまもと２００２」にスタッフとして参加したときの「身土不二、農都不二」をスローガンに有機農業運動を推進された前韓国農林大臣である金成勲氏の講演が印象に残っている。持続可能な社会の実現のためには、草の根的レベルでの取り組みがとても大事であることを学んだ。

（ＴＡＯ塾の波多野先生が金氏へのインタビュー記事を書いています。興味がある人は是非読んでみて下さい）

私が、アメリカン大学で学ぶ目的は、将来世界を舞台に働く為の国際感覚、教養を身につけるためである。また地球規模でものを考え、地域に根ざした活動のできる地球人となるために、アメリカの多様な文化の中で、学問的にも生活レベルでも理解を深めていきたい。アメリカン大学では公共政策学を専攻したいと考えている。それは、アメリカ社会の諸問題について幅広く学び考える中で、同じ経済大国である日本が国際社会の中で果たさなければならない役割や、これからの指針、途上国との関係がみえてくるのではないかと考えたからだ。

大学卒業後はさらに大学院に進学し、諸外国の環境政策、環境教育について専門的に学ぶつもりだ。環境問題に対して意識の高いドイツやオーガニックな食や農のユニークな取り組みが推進されているオーストラリアの大学院進学も視野に入れている。そして、将来は国際機関の職員となって、国際的な環境開発や環境保護に貢献していきたい。

地球全地域におけるバランスのとれた発展、全人類の幸福という観点から、その地域に住んでいる人々の幸せのために何ができるかを考えた国際協力のあり方や、望ましい開発の方向を探求していきたいと考えている。

◎ 元国連上席顧問･北谷勝秀氏インタビューより

インドネシア、パキスタンにて国連開発計画（UNDP）常駐代表補、ニューヨーク本部でアジア局第 1 部長等を歴任。1986 年から 1990 年まで国連ミャンマー常駐代表。1990 年から 1993 年まで国連人口基金 事務局次長。30 年以上貧困、環境、人口、女性等の問題に取り組んできた。長安大学名誉教授、地球環境平和財団会長（2003 年現在）。熊本大学客員教授。 TAO 塾顧問。

波多野　「世界」を知る北谷さんから見て今の日本をどう思われますか？

北谷　今の日本には国際感覚、先見性、思いやりが欠けているように思えます。政治家も国民も自分たちの都合と目先のことだけに心を奪われ、子どもたちの将来や世界人類の大半が住んでいる途上国の事情や困難には無関心です。世界中で助け合って、ともに繁栄しようという気持ちが希薄です。一国繁栄主義なんでしょうかね。今の日本人に感じることは、自分で考えることをしない人が非常に多いことです。何か、結論や結果を手軽に他に求めている感じで、自分の命や健康を守るのにも他人まかせです。

私はアメリカに 22 年間滞在して、数多くの大学生に接触する機会がありました。そこで感じたことは、アメリカの大学生の方が日本人の大学生に比べて大人であるということです。彼らもよく遊びます。しかし、大変な勉強ぶりなのです。小中高校生たちの知識量を比べると日本の生徒の方が上かもしれません。しかし、大学生となるとアメリカ人の方が明らかに上です。これを何と説明すればよいのでしょうか。

私は、その理由を日本の入学試験制度に求めます。今の勉強の仕方が試験をうまくパスするように仕組まれていて、自分で考えたり、人生の行き甲斐や使命感を求めるには不都合な気がするのです。試験に受かるための勉強はあまりにも近視眼的な人間を作り上げてしまいます。こういう人たちは無駄な勉強をしない。人の痛みを感じたり、恵まれない人達に思いをかけるのも苦手なようです。大学に入学しても勉強をしない学生を作る現在の制度は日本の将来を誤るものです。従って、私は現在の入試制度は全面的に改革すべきだと考えています。

国家の指導者は日本の将来の指導者育成に力を入れるべきです。50 年から 100 年先の日本と世界のあり方を考えられるような人々、ビジョンを持つ人々が出てくるように「人づくり」に情熱を傾けるべきです。大学を出て、一流会社に入ることを目標にしている人々だけを作り出しているような教育のあり方には疑問を持つべきでしょう。世界のために、人類のためにと、生き甲斐や使命感をもって精進する学生を育てて欲しいです。

「医食農同源の論理～ひとつらなりのいのち」（波多野毅著　南方新社）より抜粋

2005年
今年の抱負

梶原宏子さん（保育士の卵）
将来の夢のためにニュージーランドやオーストラリアなど海外の保育園や幼稚園の現場を見に行けたらと思っています。

松原崇一朗君（医者の卵）
「木を見て森を見ず」でなく多元的視野を持つ医者を目指したい。解剖実習、幅広い読書、音楽鑑賞など自分の情緒や見識をさらに高めていきたい！

佐藤太地君（職人の卵）
毎朝二時起きで、パン職人のマイスター目指して修行しています。ドイツでの生活にも大分慣れてきました。さらなる技術向上に励みます！

秋吉徹君（役者の卵）
２月の卒業公演の練習に燃えています。なんと主役です！舞台を成功させ、オーディション合格を目指します！

金子健太郎君（美容師の卵）
昨年はこれまでの人生の中で一番変化した年になった。今年も様々なことにチャレンジし、自分を誇れる自尊心のグレードを高めていきたい。

大塚英起君（薬剤師の卵）
薬学人たる知識･姿勢･倫理、また国際化社会･IT 社会に対応できる語学力･パソコンを駆使できる力を養いたいです。

卒業生＆在校生の声

最近のメール＆手紙より

◎4月オープンに先だちTAO食育空間始動！

昨年出版しました拙著「医食農同源の論理～ひとつらなりのいのち」（南方新社）に対しまして、読者の皆さんから感想やご意見の書かれた手紙やメールを多数頂きました。その中で、健康や環境に関する有益な情報を収集発信できるセンターの開設の要望を沢山頂きました。TAOはこれまで、人間の健康や地球環境などに関する様々な講座を企画したり、TAOオーガニック農場で各種ワークショップを開催してきましたが、このたび医療関係者や環境NPOの支援を頂きまして、ECO情報の集まるひろばをTAO塾横に開設することになりました。

正式オープンは来年度になる予定ですが、安心･安全な食やエコなライフスタイルを支援するオールタナティブな健康･環境に関する情報を発信していきたいと思っています。